



古川 昇
議員

質問 認知症対策について

糸魚川市の現状は専門医が1人と研修を受けられた医師が何人かいるとのことだが、診察での発見は重要なので「かかりつけ医」の態勢づくりを優先に進めてはどうか。包括支援センターを運営している医療機関があるが、地域の認知症対策の拠点としての位置付けはどうか。

また、認知症サポーター養成の取り組み、相談のつどい、認知症カフェの経過と現状を伺う。

▼市長答弁

現在市内では研修を受講された医師が18名、サポート医が1名おり、早期発見や対応ができる体制づくりを、医師会と協議しながら進めていく。認知症の初期対応や支援の拠点となる初期集中支援チームを平成30年度までに設置することとなっており、今後、医師会、地域包括支援センターと協議していく。

認知症サポーター養成講座は、これまでに2,911名が受講している。認知症カフェは4会場で毎月開催し、毎回約10名の参加があり、そこでの相談が増えてきている。

質問 スマートTVトライアルについて

政府は超高齢社会がもたらす生産年齢人口減少・社会保障費と介護負担の増大、高齢者の孤立、孤独や不安などの課題に対して、あらゆる政策ツールを全て働かせて備える必要があるとしてICTの活用も重要と位置付けている。高齢者に馴染みのあるテレビを活用した買い物、相談、家族・世代間交流などの生活支援サービス、PCなどが苦手な方への情報提供、TVリモコン操作での安否確認、見守り等の光環境を使つてのトライアルが地域の協力で行われたが、その経過について伺う。

▼市長答弁

試行期間は本年6～8月の3か月間で、モニターとして能生地域の高齢世帯32世帯とその家族30世帯、また移動販売事業者、地域包括支援センター、能生小学校他4団体が参加した。

特にテレビ電話が最も利用頻度が多く、好評であり、地域包括支援センターによる安否確認と買い物支援も好評であった。

その他質問項目 ●介護保険について



吉岡 静夫
議員

質問 「まちひとしごと創生総合戦略」・「まちひとしごと創生人口ビジョン」

いま、私たちが心しなければならないのは、「一億・「みんなで渡れば」などといった勢いや力や数の旗印や旗振りではなく、「一人ひとりがどうするか、どうなるか」の弱さという現実をこそ見直し、取り組む姿勢ではないか、と私は訴えたい。このことについて、市長はどう考えるか。

今回の市の「総合戦略・人口ビジョン」で基本目標として掲げている「勝ち行く」。このフレーズ、まさに「強けりゃ、数さえ、力さえ、カネさえ、勢いさえ」が目立って強調されていると、私は受けとめた。しかし、現実が違う。「数も勢いもカネも力もない」人もいてこそこの「市民」、「糸魚川」。そういった現実・現況のなかでの「勝ち行く」とは。

▼市長答弁

総合戦略では4つの基本目標の中で子どもからお年寄りまで、みんな健康で暮らしやすいまちを目指しており、そのことが他の地域から見て輝きを放ち、結果として他の地域に負けない「勝ち行く」まちになるものと考えている。具体的な施策は、総合計画や予算編成の中で検討していく。

質問 国道8号東バイパス

一部開通とはいえ、利用に入ってから約半年。開通後の新旧対比交通量の流れはどうなっているか。また、利用者・関係地区への広報・広聴活動はどの程度になされているか。

▼市長答弁

国土交通省が開通後に実施した調査によると、従来の国道8号の交通量が28%減少したとの結果が公表されており、同調査の中で、地域から「通学児童の安心感が増した」、「利便性が向上した」、「バスの運行がより安全になった」などの声が寄せられている。

**その他質問項目 ●「権現荘・温泉センター」
●桂・工場用地問題
●「姫川病院」、その後と対応**